事業報告概要書（公表版）

公表様式

1　基本情報

施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
都市部の公園・東部グループ	（指定管理者名）　アメニス東部地区グループ （団体の概要） 代表団体：株式会社日比谷アメニス 構成団体：日建総業株式会社
指定期間	
H28.4.1　～　R05.3.31（7年間）	

2　施設名

猿江恩賜公園　中川公園
亀戸中央公園　大島小松川公園
尾久の原公園　宇喜田公園
東綾瀬公園

3　収支（単位：千円）

項目	金額
収入　計	654,139
内訳 指定管理料	654,139
内訳 利用料金	0
支出　計	654,139
収支差	0

公園別支出額

猿江恩賜公園	124,125	中川公園	57,795
亀戸中央公園	92,037	大島小松川公園	168,902
尾久の原公園	48,031	宇喜田公園	27,338
東綾瀬公園	135,911	合計	654,139

4　管理運営の概要

基本方針に挙げた「TOKYO PARK TRIP」の実現のため、公園を訪れる皆がわくわくするような公園作りを積極的に目指した。しかし昨年度から続く「新型コロナウイルスCovid-19 」の感染拡大の危機は、昨年度以上に長い期間影響を受けたように感じられた。緊急事態宣言とその措置の期間、まん延防止等重点措置の期間、その他の注意喚起の期間が長期に渡り、公園の管理運営や利用促進などに大きく影響があった。さらに12月から急速に広まったオミクロン株については、職員の近辺でも家庭内感染などにより、その影響が間近まで迫って、BCP体制やバックアップの方法などの検討を行った。物理的な感染防止策やルールの徹底を行い、職員の感染も最小限にとどまり、クラスターなどは発生させなかった。

緊急事態宣言及びその措置における利用者は、屋外でのレクリエーションを求めていること、ウォーキングやランニングなどの運動をする方が増えていること、などが考察される。特にBBQ施設の利用や例年行っているイベントへの開催に関する問合せが多かった。公園の新たな利用者が増えていると推測され、その方々の公園利用が定着するように、今後は公園に誘導するような仕組みやコロナ禍での公園の利用促進策を実施を検討する。

5　管理状況（維持管理）

維持管理全般への対応として、感染拡大防止策をしっかりと確認、実施しながら、かつ熱中症対応として、マスクを外して良いルールを話し合い、体調面に気をつけながら作業を行った。また安全管理に重点を置き、各々の作業において危険予知活動を行う、安全パトロール3カ月に1回実施する、事故や災害情報をメールや掲示板機能で共有する、こと等で2021年度は年間作業事故０で乗り切ることができた。

樹木管理では、増額予算の大径木管理を重点的に実施し、特に東綾瀬公園、猿江恩賜公園では、利用者要望に対応して、大規模な選定作業を行うことができた。引き続き、東綾瀬公園を中心に計画を進めていく。昨年度から対応しているカシノナガキクイムシやクビアカツヤカミキリに対しては、定期的に巡回点検して、新たな発生を食い止めるとともに、適切に対応を行っている。クビアカツヤカミキリについては発生は見られなかった。また、継続的に全公園で園路際・樹林地・広場などエリア毎の機能剪定を実施し、季節毎の花や紅葉を通じた公園の魅力を楽しんでいただいた。ハーブや花を活用した新たな公園の魅力作りを推し進め、宇喜田公園のハーブガーデンの活動、大島小松川公園自由の広場大花壇での活動、東綾瀬公園でのハーブガーデンでの活動が充実し、公園ならではの魅力を創出した。広大な面積の草地管理を適正に行うための施策が望まれており、草刈りロボットの導入を実証実験したが、大島小松川公園の立地環境が合わず、断念した。３Ｄスキャナを活用した樹木台帳の作成も亀戸中央公園、猿江恩賜公園と進んできている。

施設・設備管理では、平成23年度から7年間蓄積した設備機械台帳のデータを元に計画的に修繕を行い、更なる施設の予防保全、長寿命化に向けた改善を推進した。増額予算の計画的な実施や緊急対応経費による不具合の修繕作業などを実施した。利用者からの施設や設備の要望にも適切に対応し、猿江恩賜公園での園路舗装、東綾瀬公園の時計設置、中川公園のバスケットコート、などは速やかに対応を行うことができた。大島小松川公園の六価クロムと尾久の原公園のダイオキシンについては、細やかなリスク対応を毎日行っている。結果利用者からのクレームは1件もなく、適切なリスク管理ができている。

東京都が取り組んでいる「再生エネルギーの利用を推進する」ため、電力供給先を変更し、「都立公園初の再生可能エネルギー100％の電力による公園管理運営」を継続した。

6　利用者アンケート結果

実施方法：

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の応対	施設ごとの分析・評価
猿江恩賜公園	4.8	4.6	4.1	4.5	4.6	「満足・やや満足」97%「やや不満」0%。コロナ禍でも非常に満足度が高い。老朽化施設の計画的な改善が必要。
亀戸中央公園	4.5	4.5	4.0	4.3	4.2	全体的に満足度が低下。総合満足度と植栽管理は高い水準。施設の清潔さのポイントが低いが老朽化が要因か？。
尾久の原公園	4.6	4.5	4.0	4.4	4.4	総合満足度や植栽管理を含め高い水準。施設の清潔さが低いのはトイレの老朽化が要因と思われる。
東綾瀬公園	4.6	4.5	4.2	4.4	4.4	全体的に満足度が向上。総合満足度と植栽管理は高い水準。コロナ禍で展示を強化し認知度が上がっている。
中川公園	4.6	4.5	4.1	4.5	4.2	総合満足度は高評価。コロナ禍で花や樹木、広い芝生広場に評価がある。施設の清潔さは改善が必要。
大島小松川公園	4.7	4.6	4.1	4.4	4.3	総合的に評価は高い。「花いっぱいプロジェクト」で花に対する評価が高い。植物管理のポイントが高い。
宇喜田公園	4.4	4.4	3.8	4.1	4.0	全体的に評価は下がっているが、コロナ禍での公園利用でハーブガーデンの評判が良かった。
グループ平均	4.6	4.5	4.0	4.4	4.3	

グループ全体の分析・評価

7公園では毎年秋にアンケート調査を行っているが、昨年と同様な評価であった。新型コロナウイルス感染拡大により、どの公園もイベントが開催できず、地域や利用者とのコミュニケーションが取りづらかったため、と考える。しかしグループ平均では4ポイントを超えて、高い水準であり、特に総合満足度、植栽管理の満足度は高く、世界の花壇作りで猿江恩賜公園のチューリップ花壇、大島小松川公園のイングリッシュ風花壇、宇喜田公園や東綾瀬公園のハーブガーデン、といった公園ごとに特色ある花壇作りを行ったこと、しっかりとした植物管理が行われたこと、が要因だと考える。全体で施設の清潔さのポイントが比較的低くなっているが、老朽化が見られる施設が多くあるため、計画的に修繕等を進めていく。

7　利用者数の状況（単位：人）

施設名	当該年度	分析・評価
猿江恩賜公園	1,525,358	江東こどもまつりやチューリップフェスタ、防災フェスタなど大型イベント中止により利用者数が減少した。
亀戸中央公園	1,754,819	生物多様性に配慮した公園づくり、自然観察会や動画を使用した新たな利用促進の効果で、利用者が増加した。
尾久の原公園	916,565	シダレザクラまつりが中止、利用者が減少した。地域スタンプラリーに参加、利用は多いが伸びなかった。
東綾瀬公園	2,330,349	コロナ禍や施設改修に伴う運動施設利用者の大幅減、通勤利用者の減が影響した。
中川公園	1,010,128	運動広場の利用者が活動自粛したことで減少。バラやモミジなどの情報発信で増加傾向。
大島小松川公園	1,439,690	自由の広場大花壇や花の装飾に力を入れ、効果的な広報との相乗効果により利用者増となった。
宇喜田公園	679,912	スポーツ広場等の利用者であるチームの活動自粛により利用者が減少。ハーブ見学に来園される方は増加傾向。
合　計	9,656,821	

○施設別事業報告書

様式１－②

指定管理者名　アメニス東部地区グループ

猿江恩賜公園

～歴史とみどりが息づく公園～

猿江恩賜公園の特徴

・歴史や文化を継承する公園

明治政府の貯木場であったが、昭和7年に公園として開園した。園内のミニ木蔵は当時の猿江貯木場の面影を残す。

・都会に貴重な自然を残す公園

多様な生物の生育環境に配慮した環境整備を行うとともに、公園独自の自然環境を利用した取り組みを行っている。

猿江恩賜公園の課題

・地域とのつながり拡大

新型コロナウイルスの影響により、地域との連携事業の自粛が続く状況下で、地域との連携をいかにして発展、持続可能なものとするかが課題であった。

・植栽や施設の計画的な管理

全面開園から約40年経過。施設等のハード面での老朽化が顕著であり、計画的に施設改修・植栽管理を進めることが課題であった。

猿江恩賜公園の目標

『猿江恩賜公園マネジメントプラン』に基づく

・スポーツによる健康づくり

東京オリンピック・パラリンピックの開催、その後のコロナ禍でのスポーツ活動の機運を盛り上げ、都民の健康づくりに貢献する。

・防災機能の強化

災害時は避難場所としての利用が予想される。災害発生を想定した取り組みや、防災関連設備の充実化を図る。

『猿江恩賜公園マネジメントプラン』に基づく

令和3年度の猿江恩賜公園管理運営方針

一　地域連携の維持と拡大

二　公園における緑とその価値創造

三　利用者の安全性利便性の向上

取り組みその一

地域連携の維持と拡大

コロナ禍における新たなボランティア活動と地域とのつながり。
自主事業でのイベントオンライン化の試み。

新たなボランティアとの案内　～解説のタッチレス化推進～

猿江恩賜公園で新たなボランティア活動団体として令和3年4月に「和ぎの会」が発足。公園主催イベントの補助及び自主イベントの開催、公園紹介や自然解説のセルフガイド及び掲示物の作成等を通じて、利用促進と環境保全普及活動を行い、来園者との交流を深めた。

夏休みクイズラリー

お散歩ビンゴ

ドングリマップ

生き物自然パネル展示

毛利小児童への自然体験機会の提供

近隣の毛利小学校とスクールパートナー事業として連携活動を図り、年間を通じた植物体験を行い児童の自然への理解を深めることに寄与した。

稲刈り体験

芋掘り体験

コロナ禍における新たな健康増進

まん延防止措置期間の延長により、3月にご自宅で体験できるスポーツオンラインプログラム「椅子ストレッチ＆ウォーキングスキルアップ」にチャレンジした。ご自宅で体を動かす良い機会となったと好評で、新たな手法で健康増進を図ることができた。

アウトドアフィットネス
オンラインプログラム

取り組み
その二

公園における緑とその価値創造

集まらなくても体験できる自然とのふれあい機会の提供。
公園のみどりの価値についての千葉大学との共同研究を開始。

自然とのふれあいと心の癒し

コロナ禍でイベント等自粛する中で、花修景や公園の自然が来園者の楽しみや癒しの重要な要素となった。そのため、チューリップの見ごろアップのためにフォトスポットを設置。また、子供たちに人気の「猿江に住む魚類」をサービスセンターで展示した。来園者に自然をより身近に感じていただく機会を提供できた。

チューリップガーデン

中央広場の桜

猿江に住む魚類の展示

千葉大学との共同研究「みどりの価値について」

千葉大学とみどりの価値について共同研究を開始。コロナ禍を経て公園へのニーズがみどりの量や質から、居心地の良さへと変化しており、その価値を最大限発揮できるように千葉大学と「こころにやさしい新しい緑の価値創造」をテーマに共同研究を開始。令和3年度は利用者の行動特性からどのように公園が利用されているかの調査を行った。360度カメラの活用、社会実験としてGPSロガーを付けたイス・レジャーシートの貸出による利用者の位置情報の取得などの調査により、公園利用者の行動の傾向や利用目的を客観的に把握することが可能となった。（公益社団法人）日本都市計画学会で中間報告を行っており、今後も調査を継続していく。

360度カメラをによる利用状況調査

GPSロガーを付けたイス・レジャーシートの貸出

時間帯別利用者状況
（調査結果の一部抜粋）

（公益社団法人）日本都市
計画学会での中間報告

取り組み
その三

利用者の安全性利便性の向上

利用者の安全性利便性向上を最優先して日常管理の品質を向上

安全対策のための機能剪定

台風対策、落葉対策等危険枝の剪定を継続的に実施し、利用者の安全確保を第一とした植栽管理を行った。

落葉対策剪定を実施した前後写真

安心安全に来園者が利用できるために

降雪時には職員による除雪対応をいち早く実施。園路やスポーツ施設の早期解放につなげた。

降雪時の除雪対応（翌朝9時には開放）

○施設別事業報告書

様式１－②

指定管理者名　アメニス東部地区グループ

亀戸中央公園

～歴史とみどりが息づく公園～

亀戸中央公園の特徴

・歴史や文化があふれる立地

亀戸天神社や亀戸水神宮などの歴史あるスポットや東京スカイツリーなどの観光地が点在する魅力ある地域に位置する。

・自然を学ぶイベントの充実

自然体験プログラムやサザンカガイドツアー、各種イベントが非常に充実しており、公園のテーマである「都会でみどりが学べる公園」を実現している。

亀戸中央公園の課題

・利用者に配慮した公園づくり

公園の老朽化に伴う施設の問題を早期に発見・対処し、来園者が安心して安らげる公園づくりが必要である。

・サザンカの名所の復元

サザンカの名所の公園として知られているが、現存する品種の種類はあまり多くないので、今後品種を増やし、名所としての実態を回復する必要がある。

亀戸中央公園の目標

『亀戸中央公園マネジメントプラン』に基づく

・公園独自の魅力づくり

公園独自の魅力を積極的に発信し、自然観察、様々な世代の交流など、楽しさあふれる公園づくりを目指す。

・水と緑の骨格軸の拠点となる公園、街路樹の形成

幹線道路や河川との緑のつながりに配慮した整備を進め、都民がうるおいとやすらぎを実感できる緑の拠点を創出する。

令和3年度の亀戸中央公園管理運営方針

㊀ コロナ禍での利用促進事業の展開

㊁ 安心して遊べる公園づくり

㊂ サザンカの名所の復元

取り組みその一

コロナ禍での利用促進事業の展開

動画配信などコロナ禍で楽しめるイベントを実施

季節のワークショップや自然観察会のプログラムを展開。体験プログラムでリーフレットや動画を活用。

■クラフトで季節感

コロナ対策を万全にし、事前予約での人数制限を設けて、午前午後に分けてクラフトプログラムを行った。どんぐりマップとクラフトの動画を作り、どんぐり拾いは園内で、クラフトはご自宅でといったハイブリットクラフト企画も実施した。

どんぐりマップ

クリスマスリース作り

■啓蟄のこも外し

Youtubeにて動画配信。3月5日は啓蟄の日、冬ごもりの虫が這い出る日、冬の風物詩こも巻きを外す恒例の日にどんな虫がいるか観察するといった内容。

■自然観察会

年間１２０名以上は参加する観察会を通じて自然を学び公園の自然の魅力を感じていただいた。

取り組み
その二

安心して遊べる公園づくり

日次の巡回や月次・年次の遊具点検などで危険個所を敏感に把握し、必要な措置を迅速に行った。

安心して遊べる公園づくり

安心、安全な公園にすべく、日次の巡回や定期点検を実施。定期的に本社主導の店社パトロールを行い危険個所の把握と対応に努めた。ベンチの座面の交換、陥穽の埋め戻し、ジャブジャブ池のタイル補修を行い安心して遊べる公園づくりを行った。

休憩も安心　ベンチ更新

陥穽埋め戻し

土塁補修

タイル補修

生物多様性に配慮した公園づくり

意図的に草の仮残しを行い生物多様性に配慮したエリアを「バグズガーデン」として整備。安心して昆虫採集等の自然体験ができる場所を作った。子供達の虫探しの場になり虫を追いかけて賑わうえりあとなった。

バグズ(虫)ガーデン

取り組み
その三

サザンカの名所の復元

サザンカ植栽地復元に向けて、日本ツバキ協会より無償提供された挿し穂を育成。

無償提供を受けた差し穂の育苗

【サザンカ名所復元計画の概要】…サザンカの名所として品種の充実と既存種の維持を行った。サザンカ植栽地復元に向けて日本ツバキ協会より無償提供された挿し穂も順調に育成中である。

サザンカの病害虫防除

園地でのサザンカ植栽は徹底的なチャドクガ対策が前提となる。一方で都市公園での農薬散布は安全面で大きなリスクを伴う。亀戸中央公園ではこの二つの相反する事情を剪定防除や毒針毛固着剤による捕殺をチャドクガ時期に徹底的に実施することで克服し、成果を上げることができた。

毒針毛固着剤によるチャドクガ卵塊の捕殺

○施設別事業報告書

様式１－②

指定管理者名　アメニス東部地区グループ

尾久の原公園

～水辺のいきものとふれあえる街中公園～

尾久の原公園の特徴

地域と連携したイベント展開

地域密着型の公園であり、近隣の店舗やボランティアが公園に参画する地盤がある。マルシェやワークショップなど他の公園とは趣向の異なるイベント展開をしている。

荒川区でも有数の自然

トンボ池など、荒川区でも有数の自然が残る公園であり、30種類以上のトンボや冬季は水鳥の貴重な生息場所となっている。

尾久の原公園の課題

ダイオキシンによる土壌汚染

平成26年に、土壌にダイオキシンが残留しているリスクのある地域に指定され、平成28年3月に公園が全面開放された。

遊具等のハードが少ない公園

子供の遊べる遊具が原っぱに1箇所しかなく、他の公園と比較しても遊具等のハードが非常に少ない公園。イベントなどのソフト面で公園活性化を図る必要がある。

尾久の原公園の目標

『尾久の原公園マネジメントプラン』に基づく

東京一”綺麗”な公園！

尾久の原公園は、非常に綺麗な園路や芝生広場が広がっている。きめこまやかな施設管理により、これを継続して維持する。

自然とふれ合える公園づくり

トンボ池など、荒川区でも貴重な自然を活かし、公園の自然を積極的にPRするほか、環境教育プログラムの充実を図る。

令和3年度の尾久の原公園管理運営方針

一 地域とともにある公園

二 自然とふれあえる公園

三 コロナ禍に対応したイベント展開

取り組みその一

地域とともにある公園

地域住民が個人として、団体として、いきいきと輝ける場となる公園を目指して

ボランティアとともに

園内に自生する希少植物の観察・保護や園内を彩る花壇の維持管理活動を多くのボランティアとともに行った。

尾久の原愛好会による
希少植物観察会

第32回「みどりの愛護」功労者
国土交通大臣表彰
（令和3年度）

子供たちがつくる「子供花壇」を新設

ボランティアによる花壇の植え替え

地域とともに

地元の商店、消防、社会福祉協議会などとの連携の中で、新たな可能性を追求している。

地元消防と防災のキャンペーンを通して防災の拠点としての公園の未来像を想見

地域166スポットと連携してスタンプラリーに参加

地域活動入門講座
「尾久の原愛好会と
あらかわの貴重な湿地」
職員とボランティアが
公園の自然について講演

あらかわ地域活動サロンの
交流会に参加

取り組み
その二

自然とふれあえる公園

貴重な自然を通して、陸の豊かさを知り、身近な生態系を大切にすること

独自の自然体験機会の提供

荒川区や小学校と連携し、「自然観察会」や「生き物スタンプラリー」を実施。
各々が生きものを見つけて作る「生き物マップ」など、自然を生かした企画は来園者にも好評。

近隣小学校と連携してスタンプラリー「5つの生き物探し」を実施。自然観察会から派生した生き物イベントとして公園の自然を体感できるツールとなった。

荒川区環境課の方を講師に招いての「自然観察会」は毎回、定員を超える応募が殺到するほどの人気企画となっている。

原っぱに作った刈残し「虫の王国」は生きものの探索スポットとして人気に。9月にはここで準絶滅危惧種である「コガネグモ」も確認された。

公園の特性を活かした維持管理

ダイオキシンによる深刻な土壌汚染。リスクを踏まえた管理作業を徹底し、地域生態系の保全に努めた。

カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害を早期に発見。迅速な処置により拡大を防ぎ、被害を最小限度に食い止めた。

公園開園以前にあったこの地本来の自然環境を残すよう園内の植生にも配慮。ミソハギやイヌタデといった自生植物の保護・維持を心掛けた。

取り組み
その三

コロナ禍に対応したイベント展開

感染症対策をきっかけとして職員が始めた季節のおもてない展示を地域住民を巻き込んだ形で展開

①職員指導で展示型の企画を展開

常に新型コロナへの対策が求められる中で、サービスセンター前のスペースを活かし、展示型のイベントを展開。これまではバックヤードでしかなかったスペースが、公園の見どころの一つとして来園者の間に定着した。

展示型の企画では、ただ季節を踏まえるだけではなく公園由来の植物や発生材を利用して制作するなど、公園ならではの企画になるよう心掛けた。

②参加型企画に発展

恒例企画として認知されたところで参加型の展示企画とした。
参加者はもちろん、見学に訪れた利用者の間で好評であった。

○施設別事業報告書

様式１－②

指定管理者名　アメニス東部地区グループ

東綾瀬公園

～緑の中でからだ動かす多世代交流公園～

東綾瀬公園の特徴

・地域に密着した管理運営

約2kmにわたる緑道のある公園で多くの住宅地に隣接しています。通勤、通学、リクレーションに利用されているので、近隣自治会や住民と連携した活動が盛んな公園です。

ファミリー層の利用客増加

近年新規住宅の建設が進み、若い世代の家族連れでの利用が増えています。年配の方のご利用も含めて、公園のテーマでもある「多世代交流」が進んでいます。

東綾瀬公園の課題

・樹木に対する苦情対応

公園には高木が多く、隣接した住宅や区道の日当たり確保や区道、園路の安全通行のために越境枝の除去や落葉清掃など樹木に関する苦情対応が課題

・パートナーシップの活性化

花壇の維持や清掃活動、犬の躾指導など多くのボランティアの方が自主的に活動されています。公園はボランティアパートナーとより連携し、公園を活性化することが課題

東綾瀬公園の目標

『東綾瀬公園マネジメントプラン』に基づく

・防災機能の強化

災害時は避難場所としての利用が予想される。災害発生を想定した取り組みや、防災関連設備の充実を図る。

・スポーツによる健康づくり

2021年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、スポーツ活動の機運を盛り上げ、都民の健康づくりを進める。

令和3年度 東綾瀬公園管理運営方針

㊀ 苦情・要望への対応を含めた樹木管理

㊁ コロナ禍における公園ポテンシャルを引き出す取り組み

㊂ パートナーシップの更なる活性化

取り組みその一

苦情・要望への対応を含めた樹木管理

東綾瀬公園には高木が多く、隣接した住宅の日当たり確保や区道、園路の安全通行のために越境枝の除去や落葉清掃など樹木に関する苦情対応を粘り強く実施

強風による高木の揺れや倒木防止と住宅の日当たり確保

強風による揺れの恐れがある場所、日当たりに対する近隣住民からの要望を踏まえた計画的な高木剪定を実施して住民の不安と不満を取り除き、近隣住民から評価をいただいた。

作業前

作業後

作業前

作業後

安全確保のために越境枝への適切な対応と剪定

住宅・区道隣接部の越境部分を確認し、計画的に越境剪定作業を実施して、安全を確保した。

作業前

作業後

落葉清掃による事故防止

落葉の時期は優先して落葉清掃を行い、来園者が安全に散歩や通行ができるように努めた。

清掃前

清掃後

取り組み
その二

コロナ禍における公園ポテンシャルを引き出す取り組み

ボランティアと連携した花壇づくりや育成した植物を利用したイベントの開催と、スポーツ施設の整備と運営により公園のポテンシャルアップを図った。

ボランティアと連携した花壇づくり

花壇とプランターの再整備と季節の花苗の植え付けや手入れにより、開花時には来園者や通勤、通学の通行人の心を和ませることができた。又育てたハーブを利用したイベントを開催し、参加者の満足の声を頂いた。

快適なスポーツ施設の整備と運営

野球場とテニスコートの照明がLEDになり利用者からはナイター利用が快適になったとお褒めを頂き、近隣住宅への照明漏れが少なくなった。又通常の施設整備に加えて、雨天、積雪後に早急な整備を実施することで利用促進につなげた。

野球場はより明るく利用者に評判

近隣住宅への照明の影響低下

積雪後のテニスコート復旧作業

取り組み
その三

パートナーシップの更なる活性化

地域の安全・安心の向上のために足立区、警察、教育機関、NPO等と連携して、地域のパートナーシップの深化を図った。

スクールパートナーと連携

教育機関と連携した活動を継続して行った。綾瀬福祉園は子供たちがケガをしないよう継続的に石拾い清掃を行った。

わんわんサポーター綾瀬

わんわんサポーターと連携したゴミ拾い活動や犬の躾教室の開催など公園内の清掃活動とマナーアップ向上に寄与した。

綾瀬警察との連携

綾瀬警察署、足立区すいすいランドと連携した防災活動として水難訓練や土嚢作り、公園利用者への防犯、防災の呼びかけ運動など地域の安全と安心のための活動を推進した。

○施設別事業報告書

様式１－②

指定管理者名　アメニス東部地区グループ

中川公園

～地域にとけこむふれあい公園～

中川公園の特徴

・足立区のかくれ紅葉スポット

100品種を超えるカエデ類やイチョウ、サクラなどの樹種が秋には見事に色づく。知る人ぞ知る街中の紅葉スポット。

・街中の静寂閑雅な空間

下水処理場の上に位置するA地区は夜間閉鎖される。環状7号線に面していながら静かで落ち着いた空間となっている。

中川公園の課題

・サービスセンターの役割

有料施設が無く立地も悪いためサービスセンターの利用者が少ない。サービスセンターの利用を増やす必要がある。

・公園の活性化

公園の広場を活用したイベントや隣接する水再生センターとの関係強化など、公園のポテンシャルを有効活用し、さらなる認知度を向上させることが課題。

中川公園の目標

『中川公園マネジメントプラン』に基づく

・公園独自の魅力づくり

公園独自の魅力を積極的に発信し、自然観察、様々な世代の交流など、楽しさあふれる公園作りを目指す。

・子供の健やかな成長の場作り

子供たちの野外体験の場を増やし、多世代交流や子供たちの体力向上を図るとともに、公園のテーマである来園者たちとの”ふれあい”を大切にした公園管理を行う。

令和3年度の中川公園管理運営方針

㊀ 公園独自の魅力づくり

㊁ 学習の場としての公園

㊂ 関係行政機関との協力・連携

取り組みその一

公園独自の魅力づくり

公園内で育てた植物などを利用して独自の魅力をPR
来園者から好評をいただくとともにリピート利用を促すことができた。

巨大カボチャ・ヒョウタン

公園独自の魅力作りの一環として巨大作物の育成を行った。来園者からは日々大きくなる作物を見るのが楽しみなどの感想を頂き好評であった。収穫後は加工して展示することにより、一味違う楽しみ方を提供し魅力づくりに。

20kg以上ある巨大カボチャ　　40cm越えの巨大ヒョウタン

モミジの鑑賞会の実施

専門の講師を招き観察会を実施、モミジの魅力について学んでいただいた。とてもためになったと参加者からは好評で観賞のために再び来園したいなどの感想をいただいた。公園の特徴である紅葉の魅力を伝えることができた。

観賞会の状況

ドングリを使用したイベント

ドングリ鬼

ドングリひな飾り

ドングリ拾いに来園していただくことを目的に展示物等を作成、好評をいただいた。

取り組み
その二

学習の場としての公園

コロナ禍で活動範囲が限定される中、公園を通じて学習の場を提供した。

小学生の職業体験の場を提供

小学校生活科授業の一環として、公園での仕事について体験。仕事内容について児童からの質問に答えるとともに、維持作業プログラムを提供し、公園の仕事を実体験してもらった。

児童からの質問に答えるセンター長

授業風景

奉仕活動の場を提供

近隣都立高校の授業の一環として、奉仕活動を実施。公園でゴミ拾いのプログラムを提供した。

奉仕活動
ゴミ拾い風景

天体について学習の場を提供

専門の教師説明により星空観察会を開催、コロナ禍の影響で中止となった小学校行事のプラネタリウム鑑賞の代役となるなど貴重な学習の場となった。

観察会実施風景

取り組み
その三

関係行政機関との協力・連携

近隣行政機関と協力し、来園者に情報や場所の提供を行った。

所轄警察署と防災・防犯に対する呼びかけ

所轄警察署と協力して地震・津波など防災に対する呼びかけ、特殊詐欺などに対する注意喚起など、来園者に対して初めて行った。

狂犬病予防接種会場の提供

会場設営が難しいコロナ禍において、広い公園敷地を狂犬病予防接種会場として提供した。安心して接種していただくとともに飼い主に対してのマナーアップを推し進めることができた。

接種会場の状況

○施設別事業報告書

様式１－②

指定管理者名　アメニス東部地区グループ

大島小松川公園

～自然を肌で感じるアクティブパーク～

大島小松川公園の特徴

・多彩なレクリエーションの場

広大な自由の広場、東部7公園で唯一のバーベキュー場、巨大アスレチックなど様々なレクリエーションを楽しめる。

・自治体・ボランティアとの連携

江戸川区と江東区に面しており、各自治体と密接な関係を構築している。花壇ボランティアや犬の糞清掃ボランティアなど様々なボランティア団体が活動拠点にしている。

大島小松川公園の課題

・六価クロムの滲出

一部の公園区域に六価クロムが埋蔵されており、日々の滲出状況のチェックや析出した六価クロムの還元など、適性かつ安全な管理を行う必要がある。

・課題解決に向けた取り組み

近隣路上駐車、ゴミの不法投棄、小動物や野鳥への餌やり、スケートボードによる騒音など、公園における諸課題の解決に向け、地域と協働して取り組む必要がある。

大島小松川公園の目標

『大島小松川公園マネジメントプラン』に基づく

・スポーツによる健康づくり

2021年東京オリンピック・パラリンピックの開催を踏まえて、スポーツ活動の機運を盛り上げ、都民の健康づくりを進める。

・防災機能の強化

災害時は避難場所としての利用が予想されており、災害発生を想定した取り組みや、防災関連設備の充実化を図る。

令和3年度の大島小松川公園管理運営方針

一　六価クロム対策の徹底

二　課題解決に向けた新たな取り組み

三　適切な公園の管理運営

取り組み その一

六価クロム対策の徹底

安心・清潔な公園づくりの一環として六価クロム滲出現場の点検、洗浄、還元処理、滲出対策工事を実施した。

3人態勢で毎日4回の点検

巡回員2名と責任者1名で毎日午前2回、午後2回点検→①白色化の場合→水洗い　②黄色化の場合→検査(反応ありを確認)→還元剤散布→検査（反応なしを確認）→水洗い
③汚染水滲出の場合→概ね②に同じ

検査（反応あり）

※六価クロム現場の水洗い作業中、来園者から激励を受けた。その言葉の中に、公園管理者がそんなことまでしていることを知って「感激した」、そういう陰の努力があるからこそ公園を「安心して散歩できる」という表現があった。

高圧洗浄

汚染水は地下の有孔管に流れ込んで還元処理施設に導かれる仕組みになっている。処理施設への汚染水の流れ込みが少ないときは有孔管や処理施設自体のINの管が閉塞している可能性があるので、状況をみて有孔管やINの管を高圧洗浄した。

還元処理施設のINの管の高圧洗浄

汚染水滲出対策工事

大雨や長雨によって雨水が地下に充満すると汚染水の滲出が起こる。これを防ぐため東京都と協議しながら滲出対策工事を実施した。
【工事の趣旨】汚染水を地下に抑え込み、地下有孔管を通して処理施設に導く。
【主な工事内容】1)石積や平板の目地止めによる止水　2)滲出箇所から既設の地下有孔管に向けて新たに有孔管を新設　3)表面流出が顕著な法面の法尻に排水溝を設置。排水溝の最下流は既設の桝を通して還元処理施設につなげる。

取り組み
その二

公園の課題解決に向けた新たな取り組み

近隣町会・自治会の方々から公園に係る諸課題についてご意見・ご協力をいただきながら、課題解決に向けた新たな取り組みとして「パークミーティング（意見交換会）」をキックオフ。

パークミーティング（意見交換会）の開催

大島小松川公園での指定管理業務が12年目を迎えるにあたり、近隣町会・自治会の方々から公園に係る諸課題についてご意見・ご協力をいただきながら、課題解決に向けた新たな取り組みとして「パークミーティング（意見交換会）」を開催した。

当日は7名の町会長・自治会長の参加を得て、近隣路上駐車、ゴミの不法投棄、小動物や野鳥への餌やり、園地等における球技スポーツ、自転車のスピード走行など多岐にわたる課題の共通認識を図るとともに、特に「スケートボード利用による騒音」をクローズアップして、活発かつ多様なご意見を伺うことができた。

引き続き本会議を開催することについて参加者の合意も得られ、近隣住民の方々との協働により、管理運営・利用促進のステップアップに繋げていく。

取り組み
その三

適切な公園の管理運営

適切な公園の管理運営に繋げるため、江東区内の都立4公園の意見交換会を開催し、共通する事柄（運動施設の運営や利用者要望等）についての情報交換を行った。

江東区内都立公園意見交換会の開催

アメニスグループと公園協会という枠組みを超えて、江東区内にある都立公園同士で、共通する事項について意見交換を行うことにより、より良い公園管理に繋げていくことを目的として、2021年10月に「江東区内都立公園意見交換会」をキックオフした。本会において検討・確認された事項を展開して、運営の平準化を推進中である。

第1回概要

第1回は10月12日に木場公園にて開催し、大島小松川公園、猿江恩賜公園、亀戸中央公園、木場公園のスタッフが参加。当日は、利用受付時間、コート整備、利用面の決定方法、更衣室の点検、電話対応、天候キャンセル（ペナルティ無し）の判断基準、夜間照明の点灯時期及び照明料徴収、天候キャンセルによる返金、クレーム事例（スポーツ予約システム）、登録の際の課題、キャッシュレス対応など、多岐にわたる情報交換を行った。

第2回概要

第2回は12月23日に木場公園にて開催し、前回同様に大島小松川公園、猿江恩賜公園、亀戸中央公園、木場公園のスタッフが参加。当日は、苦情対応とキャッシュレス決済について情報共有するとともに、継続検討事項としたスポレクの無断キャンセルの時間統一と日本語を話せない外国人へのスポーツ施設登録の際の説明内容の統一化等について検討した。今回の意見交換会での協議の結果、3月18日より無断キャンセルのキャンペーンを4公園統一で実施することとなった。

意見交換会から実施に至った無断キャンセルへの注意喚起キャンペーン

配布したリーフレット

○施設別事業報告書

様式１－②

指定管理者名　アメニス東部地区グループ

宇喜田公園

～人と街を緑でつなぐ公園～

宇喜田公園の特徴

・広々としたスポーツ広場

広いスポーツ広場や少年野球場があり、子供たちがのびのびと球技などで遊ぶことができる。

・人気上昇ハーブガーデン

平成29年度にリニューアルしたハーブガーデン。花壇の管理をボランティアと協働で実施し、充実が進んでいる。公園のおすすめスポットとして人気である。

宇喜田公園の課題

・管理所のない公園

東部7公園の中では唯一管理所が無く、利用者の声が届きにくいことや巡回の目が届きにくいといった課題がある。

・ペットマナーに関する苦情

隣接する江戸川区立行船公園とともに散策や犬の散歩による利用が多い。管理所が無いこともあり、ペットマナーの悪さが以前から問題となっている。

宇喜田公園の目標

『宇喜田公園マネジメントプラン』に基づく

・水と緑の骨格軸の拠点となる公園、街路樹の形成

幹線道路や河川との緑のつながりに配慮した整備を進め、都民がうるおいとやすらぎを実感できる緑の拠点を創出する。

・防災機能の強化

災害時は避難場所としての利用が予想される。災害発生を想定した取り組みや、防災関連設備の充実化を図る。

令和3年度の宇喜田公園管理運営方針

㊀ 世界の花壇「ハーブガーデン」の拡充

㊁ 園内施設の点検重視

㊂ 江戸川区との連携

取り組みその一

世界の花壇「ハーブガーデン」の拡充

世界の花壇と位置づけたハーブ花壇を都民協働で実施。
住民たちの憩いの場としての効果も増大。

活動開始から5年。地域を代表する花壇へ

2017年4月より発足したボランティア団体の定期活動は現在も毎週水曜日に実施。現場の管理は年々グレードを上げ、今や園内で最も注目を集める場所に変貌した。

注目はマスコミの取材を受けるまでになり、2022年の1月に江戸川区内の見どころ箇所として、読売新聞の記事でハーブガーデンが紹介され、知名度向上に寄与して戴いた。

読売新聞夕刊記事掲載

定期的にボランティアが作成した「ハーブ通信」によりハーブガーデンの情報を発信した。

ハーブ通信は現在14号まで発行。

ラベンダーは団体発足時に20株ほど購入し、その年の秋より挿し芽による育成増殖を継続。2021年現在、現場のラベンダーの株数は700を超え、現場を覆う程までに至った。

例年6月に咲くラベンダーは、公園利用者への配布の他、近隣の大規模病院へ持参した。連日コロナ患者と向き合う医療従事者へ感謝を込めて、団体からラベンダーを300束ほど用意し持参。また、入院し公園に遊びに来られない患者の方々に喜んでいただくことができた。

ラベンダーの配布

取り組み
その二

園内施設の点検重視

毎月1回以上の自主点検を行い、安心・安全な施設を維持。
いつでも使える施設整備に尽力。

毎月1回以上の自主点検

遊具施設と防災施設の自主点検を毎月1回以上実施。遊具施設は未然に事故を防ぎ、防災施設は利用が常時可能な状態を維持した。

2月には遊具の磨耗部品を早期に発見。その場で利用閉鎖を施し、事故を未然に防いだ。

防災施設については毎月1回以上の点検と定期的なスタッフ間での演習を実施し、有事の対応に備えている。

遊具の摩耗部品発見を受けた一時閉鎖措置

かまどベンチの使用演習

防災設備の点検　定期的な演習

取り組み
その三

江戸川区との連携

サービスセンターが無い状況下で、安心・安全・快適な
施設利用を目指し、地域自治体との連携を強化。

運動施設の共同管理

運動施設の管理は、利用調整を江戸川区、現場の維持管理を宇喜田公園で担っており、安心･安全を第一に連携強化を図っている。

直近1年の間では、外野芝の草刈日程、コロナウィルス感染予防の為の閉鎖検討、利用者のマナーアップ活動、連名表記による注意喚起、利用者からの情報共有等を図った。

公園スタッフ、江戸川区職員共に現場に常駐できないという現状を補い、利用者からの高い満足度を得るべく、連携強化に取り組んだ。

草刈り作業予告。2団体連名で表記

利用状況

土入れ